

## [個人テーマ研究のまとめ]

鹿児島県立屋久島高等学校 氏名 上田 美和

### 1 研究主題

「古典における広がりのある学習指導の在り方」

### 2 研究のねらい

- (1) 広がりのある学習指導を具体化するための単元構想を行う。
- (2) 言語活動を通じた実践的な指導を工夫・実践する。
- (3) 検証授業などの分析を基に、研究の成果と今後の課題を明らかにする。

### 3 研究経過

#### (1) 研修主題に関する考え方

一昨年度県総合教育センターでの長期研修において、広がりのある学習指導に関する研究を行った。広がりのある学習指導とは、同一作者の別の作品や、日本文化が中国文化から受けた影響の大きさや歴史的背景などにまで言及するような、関連する複数の教材を取り入れた学習指導のことである。学んだ事項は国語という教科の枠にとどまらず、他の教科への興味へと波及することが期待される。このような学習を行うことで、古典が我が国の歴史の中でどのような役割を果たしてきたか実感することができる。さらに、複合的にテキストを読み込むことで、内容を推測したり関連付けたりできる。その結果、生徒が楽しみながら、思考力・判断力・表現力を向上させることにつながる。本研究は、一昨年に引き続いてこの広がりのある学習指導を行い、その成果を見るものである。

#### (2) 研究の視点

以下の2点に研究の視点を集約する。

視点1 広がりのある学習指導の単元構想

視点2 言語活動の具体化

視点1「広がりのある学習指導」については、日本文化が受けた影響や歴史的背景にまで考えが及ぶような多面的な読みができ、国語という教科の枠にとどまらず他の教科への興味・関心へと波及するような、学習指導の単元を構想した。

#### 広がりのある学習指導の単元構想（例）

- ・古典に材を採った日本文学との比較を行う。・・・『老子』と詩集『夕オ』
- ・作品の場面を描いた絵と比較して作品に迫る。・『源氏物語』と『源氏物語絵巻』
- ・漢文で学ぶ語句や表現と現代の生活との関わりを知る。・・・ 故事成語，四字熟語
- ・同じ題材を用いた違う作品を比較して読み味わう。・・・『栄華物語』と『大鏡』
- ・同じ作者の別の作品を比較して作者像に迫る。・・・『源氏物語』と『紫式部日記』

視点2「言語活動の具体化」については、生徒自らが漢文を主体的に読み、課題を解決していくための学習過程を明確にして指導事項を指導するために、言語活動をその都度位置づけた。言語活動の選定については、鹿児島県総合教育センターが示す言語活動の具体化の手順」を参考にした。

### (3) 検証授業の実際と考察

#### ア 検証授業の構想のポイント

単元名 「古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉え、中国と日本の古典における恋愛観、死生観の違いを考察する」

#### イ 単元構想

この単元では、関連する4作品を5つのワークシートにまとめて活用し、広がりのある学習指導を構想した(表2)。

この単元構想の狙いは、生徒が、第1教材の『本事詩』「人面桃花」の内容を理解した上で、同時期の日本の『伊勢物語』に描かれる恋愛観、死生観との違いに気付く、中国と日本の古典の内容の違いを考察することである。順序立てて、ワークシート①からワークシート⑤までを提示していくと、教科書で読む「人面桃花」の世界と、内容は途中まではよく似ているが違う結末をたどる『伊勢物語』の世界とは、そこに描かれる恋愛観、死生観の違いがあることが見えてくる。作品を再検討していくうちに、生徒がものの見方、感じ方、考え方を深めていくことになる。

複数の補助教材の読解を終えた後、「中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、論述する」という活動を行い、広がりのある学習をした結果、読みが深まったという達成感を生徒に味わわせたいと考えた。

表2 単元構想

番号	教材	要旨	ねらい
① ②	1 『本事詩』 「人面桃花」 (教科書)	・愛情によって死んだ娘が奇跡的に蘇生するという話。人間の純愛が死に勝ったという唐代伝記小説によく見られる超自然的な物語である。	教科書に描かれた物語を正しく読みこなし内容を理解し、感想をもつ。
③	1 「人面桃花」 の現代語訳	・間違いを二つ含んだ訳文に接し、自分の読みの正しさを確認するワークシート。	訳の間違いを押さえながら、「人面桃花」を正しく読解する。
④	1 『幽明録』 二〇三段	・愛情によって死んだ男が奇跡的に蘇生するという話。「人面桃花」とよく似た物語展開である。	「人面桃花」と同じ流れを持つこの作品を読み、「人面桃花」との共通点を考察する。
⑤	1 『伊勢物語』 第四十段 「すける物思ひ」 2 『伊勢物語』 第四十五段 「ゆく蛩」	・失恋した男が悲しみのあまり息絶えるが神仏のお蔭で蘇生する話。 ・失恋した男が悲しみのあまり息絶えた後に男が悲しむ内容。	『伊勢物語』における恋愛観、死生観を比べ、中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し話し合い、発表する。

ウ 単元構想の手順（全4時間）

単元の構想に当たっては、次のような手順に沿って行った。

手 順	留 意 点
1 生徒の実態把握	・直前の学習での生徒の漢文への高まりが見られたことから、さらに生徒の興味・関心を高めることができる学習課題を設定する。
2 単元の目標設定	「古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえ、中国と日本の古典における恋愛観、死生観の違いを考察する」  (高等学校学習指導要領「国語総合」の指導事項イ及びウによる)
3 単元の評価規準の設定	①内容を構成や展開に即して的確にとらえ、作品の価値について考察しようとしている。(関心・意欲・態度) ②内容を構成や展開に即して的確にとらえている。(読む能力 イ) ③古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえ、中国の古典と日本の古典にあらわれる死生観を考察しようとしている。(読む能力 ウ) ④語句の意味、用法及び文の構造など表現の仕方の特色について理解している(知識・理解)  ⑤漢文を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。(知識・理解)
3 効果的な言語活動の設定	・「同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること」の言語活動例を踏まえて、中国と日本の古典における恋愛観、死生観の違いを考察するために、言語活動を、「中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、話し合い、発表する。」とする。具体的には、複数の補助教材の読みを重ねることで、作品について考えたり話し合ったりすることで、読みを広げることを狙いとする。

エ 単元の指導計画（全4時間）

時	学 習 活 動
導入 1	1 本単元の目標が論述文を書くことであることを理解する。 2 <b>ワークシート①(「人面桃花」)</b> を用い、本文を音読し、訓点を施し、書き下す。(個人学習) 3 本文に描かれた人物、情景などについて推察する。また、句法などの基礎事項を理解し、内容を推し量り、相互に確認する。(個人学習)→(グループ学習) 4 ワークシートの <b>学習問題①・②・③・④・⑤</b> に取り組み、単元の見通しをもつ。(個人学習)  評価規準：関心・意欲・態度①、知識・理解②、読む能力①
展開 I 2	1 <b>ワークシート②(「人面桃花」)</b> を用い、本文を音読し、訓点を施し、書き下す。(個人学習) 「人面桃花」の物語の中で面白いと感じたところを書く。 2 <b>ワークシート③</b> の <b>学習課題⑥(7)(8)</b> に取り組み、正しい現代語訳を探す。(個人学習) 「人面桃花」の訳文の中には2つ間違いがあるが、どこが間違っているのかを探す。 3 3つの訳文の中で間違っている箇所を発表する。(個人学習)  評価規準：関心・意欲・態度①、知識・理解②、読む能力①②
展開 II 3	1 <b>ワークシート④</b> を用い、 <b>学習課題⑨</b> に取り組みながら二つの物語の共通点を考察する。 2 <b>ワークシート⑤</b> を用い、 <b>学習課題⑩</b> に取り組みながら二つの物語の相違点を考察する。(個人学習)(グループ学習) 3 <b>中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、論述する。(言語活動)</b>  評価規準：関心・意欲・態度①、知識・理解②、読む能力①②
まとめ 4	1 前時で書いた自分の論述文を自己評価する。(個人学習) 2 展開Iの「人面桃花」の感想文を書く活動と、展開IIにおいて「伊勢物語」を参考にしながら論述文を書く活動と、どのような違いがあったか意見文を書く。また、論述文を書く活動を通して学んだことは何かを話し合い、発表する。(グループ学習) 3 <b>展開Iの「人面桃花」の感想文を書く活動と、展開IIにおいて「伊勢物語」と比較して論述文を書く活動には、どのような違いがあったかを考え、話し合う。</b> 4 話し合った内容をグループで発表する。(グループ学習)  評価規準：関心・意欲・態度②、知識・理解②、読む能力①②

## オ 評価と考察

生徒の書いた批評文を評価する際は、鹿児島県総合教育センターが示す「判断基準」に基づき、以下のように「判断基準」を設定した。

- ア 関連する単元の中で読んだ文章を踏まえている。
- イ 書き手や文章中の人物の人間、社会、自然などに対する思想や心情を的確に読み取っている。
- ウ 中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、論述している。

## カ 検証授業の具体的展開

導入（1時間目）では、教科書本文の解釈と読解を行った。展開Ⅰ（2時間目）、Ⅱ（3時間目）では、内容を正しくとらえて考察できるよう以下の学習課題を配置した。

- 学習課題①「お互いが付けた訓点を確認し合い、間違いを直してあげよう。」
- 学習問題②「お互いに音読をし、正しく書き下せるようになるろう。」
- 学習課題③「お互いに書き下し文を直し、正しく書き下せるようになるろう。」
- 学習課題④「なぜ娘は崔護に『意属殊厚』だったのか。」
- 学習問題⑤「『目柱』とは、誰が見つめたのか。」
- 学習問題⑥「現代語訳で正しい番号を選び、番号を答えよ。」
- 学習課題⑦「『幽明録』（二〇三段）の中で面白いと感じたところを書け。」
- 学習課題⑧「『人面桃花』は今日、どのような意味で使われる故事成語になっているか。」

学習課題⑨「この物話と『人面桃花』との共通点はどこだろうか。」

学習課題⑩「『伊勢物語』と『人面桃花』の展開上の相違点はどこだろうか。」

上記課題①から⑩の学習課題への取組を通して、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図ることができるよう工夫した。単元の中で最も生徒の思考力・判断力・表現力が発揮される課題として学習課題⑩を設定し、関連資料三篇から中国と日本の恋愛観、死生観の違いを読み取らせ、考察させた。

（生徒の回答）

- ・「人面桃花」は生き返ることができるが、「伊勢物語」は生き返らない。
- ・「人面桃花」は、個人の愛情の力が生死をも超える力を持っているが、「伊勢物語」は運命の前には個人の力はかなわない。

最後に「中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、論述する」という活動を行い、単元の目標である指導事項の定着を目指した。生徒の論述文は、A状況が4人、B状況が20人であった。以下A状況の論述文である。

- ・「人面桃花」は現代で言うならファンタジーの世界だが、「伊勢物語」は純文学の世界だと思った。
- ・「人面桃花」は、ハッピーエンドで終わるが、「伊勢物語」は二人が永遠に引き裂かれるところの美しさというか、むしろ生き別れになるところの切なさを一番に描きたかったのではないかと思った。

## 4 研究のまとめ

「『人面桃花』には、女がまた生き返るので、喜びと希望が感じられた。途中で男が門に詩を書きつけるところは、日本の和歌の贈答に似ていると思った。同じ頃に書かれた『伊勢物語』のほうが悲劇的で、昔から日本人はハッピーエンドではなく悲劇的なほうが好きなのかなと思った。両者の違いが面白かった。」

これは、授業後の生徒の感想である。広がりのある学習指導を研究し、単元を構想して実践したことにより、教材のみを学んだときよりも考察に深まりを持たせることができた。

視点別の成果を以下に挙げる。

(視点1) 広がりのある学習指導の単元構想

広がりのある学習指導を研究し、単元を構想して実践したことにより、生徒に漢文の内容に興味を持たせて主体的に漢文を読ませることができた。また、複数教材を読解する過程で、思考力・判断力・表現力を深めると共に伝統的な言語文化に対する理解も深まった。該当の単元で学んでほしい学習到達点を意識し、単元を通して言語活動を取り入れて実践した結果、生徒に協働的で主体的な課題解決型の学習をさせ、言語活動を活性化することができた。

(視点2) 言語活動の具体化

該当の単元で学んでほしい学習到達点を意識し、単元を通して言語活動を取り入れて実践した結果、生徒に協働的で主体的な課題解決型の学習をさせ、言語活動を活性化することができた。また、評価規準に照らした「判断基準」を生徒に示した結果、生徒が自ら自己の文章等のチェックを行うことができ、思考力・判断力・表現力を高めることができた。また、各検証授業後に行った定期考査における、該当の単元の知識・技能の定着度調査においての全体の正答率も向上した。

## 5 今後の課題

- (1) ひろがりのある学習指導の構想は教師の意図するところによって様々であるが、関連性のある複数の教材の分量や、年間の古典学習とのバランスを考え、知識・技能を学習目的に据える単元と、生徒の知的好奇心を満足させる単元とを、バランスよく配置する必要がある。また、広がりのある単元構想は方法は無限大であり、今後も異なる古典作品を用いて、研究を続ける必要がある。また、目標に沿った適切な単元を構想するための教材を、精選する必要がある。
- (2) 生徒の知識・技能の定着度の評価を小まめに行い、現状を把握しておく必要がある。また、生徒の知識・技能の定着度の評価を小まめに行うための方策の研究や、言語活動ごとの適切な「判断基準」の選定の在り方を明らかにする必要がある。
- (3) 言語活動の中での話し合い活動が有機的に働くための下準備や手立てを工夫する必要があるが、誘導の過ぎる指導は言語活動そのものをつまらなくするので、適切な言語活動を設定できるよう、研究が必要である。

## 6 参考文献等

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 国語編』平成22年 教育出版
- 西辻正副 編 『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校国語総合編』平成24年 明治書院
- 西辻正副 編 『国語の授業を変える3 評価規準をどう生かすか 高校選択科目編』平成25年 明治書院
- 『中国古典小説選2 搜神記 幽明録 異苑【六朝1】』2006年 明治書院
- 『新釈漢文大系 44 唐代伝奇』昭和46年 明治書院
- 高橋 睦郎 著 『すらすら読める伊勢物語』2004年 講談社
- 俵 万智 著 『恋する伊勢物語』1992年 筑摩書房
- 興膳 宏 著 『中国名文選』2008年 岩波新書

# 「国語総合」(漢文)学習指導案

日 時 : 平成28年12月16日 1校時

対 象 : 1年2組

教 室 : 1-2教室

授業者 : 上田 美和

## 1 単元名

「古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉え、中国と日本の古典を用いて恋愛観、死生観の違いを考察する」

## 2 単元設定の理由

パワーアップ研修の私の研究テーマは「広がりのある学習指導」である。昨年度、鹿児島県総合教育センターで行った漢文での研究テーマを、今年度は古文にも広げて、引き続いて研究することとする。

「広がりのある学習指導」とは、複数教材を用いて、内容を多くの視点から複合的に読み味わおうとする学習指導のことを指す。また、冬休み前のこの時期においては、いよいよ来年度二年生に進級する生徒たちの学習意欲を喚起し、三学期以後の学習への積極的な取り組みにも繋げていけるような古典の指導を行う必要がある。とすれば、やはり彼らのこれからの学習のために、彼らが漢文を読む上における自らの課題を少しでも見いだせる内容も盛り込んでおきたい。

本時では、『本事詩』の中の「人面桃花」を学習材とし、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、自分で答えを導き出しながら読み味わうことが出来るように指導計画を立てた。古典が苦手な生徒も取り組みやすいようワークシートを工夫し、特に書き下し文を足がかりに漢文が理解できるようにすることに重きを置いた。また、合わせて、中国の伝奇小説における類似の物語の紹介や、日本の「伊勢物語」における恋愛観、死生観との違いにも触れられるように教材に配慮した。大変不思議な物語であるから、内容に興味を抱き、作品世界を味わうことができるように工夫することで、広がりのある学習指導を目指した。

## 3 生徒の実態

国語総合を学んでいる1年生28名である。

それぞれの学力及び進路目標も違うため、それぞれの学習到達度はさまざまである。授業内容を容易に把握できる生徒とそうでない生徒が混在しているが、授業に対する取組は真剣である。

## 4 単元の指導計画

### (1) 単元の目標

ア 内容を構成や展開に即して的確にとらえ、作品の価値について考察しようとする。(関心・意欲・態度)

イ 内容を構成や展開に即して的確にとらえている。(読む能力 イ)

ウ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえ、中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察しようとしている。(読む能力 ウ)

エ 語句の意味、用法及び文の構造など表現の仕方の特色について理解している。(知識・理解)

オ 漢文を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。(知識・理解)

### (2) 取り上げる言語活動と教材

ア 言語活動 授業で取り上げた中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、生き死についての考え方を考察し、論述する。

イ 教 材 『本事詩』 「人面桃花」

『伊勢物語』 「すける物思ひ」 「ゆく蜩」

## 5 単元構想の手順

単元の構想に当たっては、次のような手順に沿って行った。

手順	留意点						
1 生徒の実態把握	直前の学習での生徒の漢文への関心の高まりが見られたことから、更に生徒の興味・関心を高めることができる学習課題を設定する。						
2 単元の目標設定	「古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉え、中国と日本の古典における恋愛観、死生観の違いを考察する」 (高等学校学習指導要領「古典B」の指導事項のイ及びウによる)						
3 単元の評価規準の設定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>読む能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 内容を構成や展開に即して的確にとらえ、作品の価値について考察しようとしている</td> <td>① 内容を構成や展開に即して的確にとらえている。 ② 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえて中国の古典と日本の古典にあらわれる死生観を考察しようとしている。</td> <td>① 語句の意味、用法及び文の構造など表現の仕方の特色について理解している。 ② 漢文を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。</td> </tr> </tbody> </table>	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	① 内容を構成や展開に即して的確にとらえ、作品の価値について考察しようとしている	① 内容を構成や展開に即して的確にとらえている。 ② 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえて中国の古典と日本の古典にあらわれる死生観を考察しようとしている。	① 語句の意味、用法及び文の構造など表現の仕方の特色について理解している。 ② 漢文を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。
関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解					
① 内容を構成や展開に即して的確にとらえ、作品の価値について考察しようとしている	① 内容を構成や展開に即して的確にとらえている。 ② 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえて中国の古典と日本の古典にあらわれる死生観を考察しようとしている。	① 語句の意味、用法及び文の構造など表現の仕方の特色について理解している。 ② 漢文を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。					
4 教材の編成	・ 『本事詩』「人面桃花」において、内容を構成や展開に即して的確に捉え、中国と日本の古典における恋愛観、死生観の違いを考察するために、教科書の教材を第1教材に、『幽明録』二〇三段、『伊勢物語』四十段、四十段を複数の補助教材に編成する。						
5 補助教材の活用	・ 教科書本文のみを読解する場合は、唐代伝記小説というジャンルの不思議な物語として「人面桃花」を味わいがちである。しかし、「人面桃花」と同じ形式を取る『幽明録』や同じ頃の日本の『伊勢物語』を読めば、中国と日本における恋愛観、死生観の違いを考察することができる。それぞれの文章の違いの分かる補助教材を活用し、「人面桃花」の面白さを考察し、様々な視点から「人面桃花」を捉え直すことを狙いとする。						
6 効果的な言語活動の設定	・ 「同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること」の言語活動例を踏まえて、中国と日本の古典における恋愛観、死生観の違いを考察するために、言語活動を、「授業で取り上げた中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、生き死についての考え方を考察し、論述する。」とする。具体的には、複数の補助教材の読みを重ねることで、作品について考えたり話し合ったりすることで、読みを広げることが狙いとする。						
7 単元の指導計画の作成	・ 段階を追って、理解した内容をより発展させた補助教材を示し、課題解決的に「人面桃花」について考えさせる計画を作成する。						

「1, 3」の手順における考え方は、基本的に研究授業Ⅰ、Ⅱの際と同様である。

「4 教材の編成」では、生徒が興味を抱きやすく、目的に沿った広がりのある学習指導が可能な教材として、教科書本文の『本事詩』「人面桃花」を選んだ。複数の補助教材として、同じ蘇生譚である、『幽明録』「二〇三」を、非科学的に蘇生することのない『伊勢物語』では、「すける物思ひ」、「ゆく蛸」とで構成した。「5 補助教材の活用」では、検定授業Ⅰと同様に、漢文を読む際の補助的役割をする傍注資料や学習の手引きなども加えたワークシートを指導者側で作成した。また、漢文のリズムに慣れさせるために、訓点の施し方、書き下しの方法などの要点も加え、ワークシートの中に集約し、活用した。「6 効果的な言語活動の設定」は、「同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明する」という言語活動を設定し、内容のまとまった論述文が書けるように工夫した。具体的には、複数の補助教材を読み進める中で学んだことを用いながら、出てきた読みの広がりを、その都度文章にまとめるように指導した。また、「判断基準」をより細かく設定し、書いた文章を生徒が自己評価できるように工夫し、次に書く文章の改善に効果を与えることを目指した。

「7 単元の指導計画の作成」においては、生徒の「人面桃花」に対する理解を深めさせながら、中国の古典と日本の古典の恋愛観、死生観の違いを考察していけるような、単元目標に即した指導計画を立てた。段階を追って複数教材を示していき、無理なく両者の違いが少しずつ理解できるよう配慮した。生徒が、その都度課題解決を図る学習課題に向かいながら、論述するという活動を意識して読みを深め考察を深めていくことをねらいとした。

5 学習指導の展開（6コマ展開）

表2 単元構想

番	教材	要旨	ねらい
① ②	1 『本事割』 「人面桃花」（教科書）	・ 愛憎によって死んだ男が奇跡的に蘇生するという話。人間の純愛が死に勝ったという、唐代伝記小説によく見られる超常的な物語である	教科書に描かれた物語を正しく読みこなし内容を理解し、感想をもつ。
③	1 「人面桃花」の現代語訳	・ 間意を二つ含んだ訳文を読み、自分の読みの正しさを確認するワークシート。	訳の間意を押さえたから、「人面桃花」を正しく読解する。
④	1 『幽明録』二〇三段	・ 愛憎によって、死んだ男が奇跡的に蘇生するという話。「人面桃花」とよく似た物語展開である。	「人面桃花」と同じ流れを持つこの作品を読み、「人面桃花」との共通点を考察する。
⑤	1 『伊勢物語』 「第四十段すける物思ひ」 2 『伊勢物語』 「第四十五段ゆく虫」	・ 失恋した男が息みのあまり息絶えるが、神仏のお陰で蘇生する話。 ・ 失恋した女が息みのあまり息絶えた後、男が思ひ込む内容。	『伊勢物語』における恋愛観、死生観を比べ、中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、論述する。

イ 単元の構成

本単元は、「導入（1時間目）・展開Ⅰ（2時間目）・展開Ⅱ（3時間目）・まとめ（4時間目）」の流れで実施した。

授業時間は各50分である。

次	主な学習活動	指導上の留意点	主な評価規準
導 1	・ 句法、語彙などの基礎事項を理解し、内容を推し量る。 ・ 「人面桃花」前半を読解し、感想を持つ。	・ 既習分野を振り返らせる。 ・ 個人やグループでの言語活動が円滑に進むよう適切に指示する。	関心・意欲・態度① 読解能力① 知識・理解①
展Ⅰ 2	・ 句法、語彙などの基礎事項を理解し、内容を推し量る。 ・ 「人面桃花」後半を読解し、正しい訳文を探し、発表する。	・ 既習分野を振り返らせる。 ・ 個人やグループでの言語活動が円滑に進むよう適切に指示する。	関心・意欲・態度① 読解能力① 知識・理解①
展Ⅱ 3	・ 「人面桃花」の復習を行い、女の死んだ理由と生き返った理由について考えさせる。 ・ 「人面桃花」の故事成語の意味を知る。  ・ 「幽明録」二〇三の文章を読んで物語の展開上の共通点を考察し、発表する。  ・ 「伊勢物語」を読む。	・ 文章の描かれ方の共通点を分析する視点を示し、自分の意見をまとめる言語活動を促す。	関心・意欲・態度① 読解能力①② 知識・理解②
ま 4	・ 「伊勢物語」を読んで、二つの物語と「人面桃花」との共通点を考察する。  ・ 授業で取り上げた中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察し、論述する	・ 「半断基準」を基に評価された自己の論述文を振り返らせ、深化と拡充を図る。 ・ 話し合いにより、生徒同士の意見を共有し、考察を深めさせる。	関心・意欲・態度① 読解能力①② 知識・理解②



6 本時の実際 (第三次)

(1) 本時の目標

ア 内容を構成や展開に即して的確ことらえ、作品の価値について考察しようとする。(関心・意欲・態度)

イ 内容を構成や展開に即して的確ことらえている。(読み能力 イ)

ウ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確ことらえ、中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、死生観を考察しようとしている。(読み能力 ウ)

エ 語句の意味、用法及び文の構造など表現の仕方の特色について理解している。(知識・理解)

オ 漢文を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めている。(知識・理解)

(2) 指導と評価の実際

	学習活動	指導の留意点	具体的な評価規準と評価の方法
導入 (5)	①グループを作り、前回の復習をする。  ②本時の学習のねらいを確認する。	・冗長になりすぎないように、簡潔こふり返る  ・今回は、後半期の文章を読んで考察を深めることを伝える。	
展開 (40)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半の音読を行う。</li> <li>・前回の復習として、問題4と5を考える。</li> <li>・後半の音読を行う。</li> <li>・問題7を考える。特に7は漠然としているので指名して答えさせながら挿入されている諷刺についてと、女が死んでまた生き返った理由について考える。(グループ)</li> <li>・問題8の解説を聞く。</li> <li>・学習プリント④の問題9に取り組みながら二つの文章の物語の展開上の共通点を考察する。(個人→グループ発表)</li> <li>・互いの意見を発表する。</li> <li>・学習プリント⑤を読み、次の時間(10)に組み合わせを確認する。(個人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を振り返らせ、学習課題に取り組ませる。</li> <li>・時間を取られぬよう簡潔こ行う。</li> <li>・簡潔こ行う。</li> <li>・読み取った内容に関して考察を深め、古典に親しむことが出来るようにする。</li> </ul>	関心・意欲・態度① 読み能力①②【記述・行動の確認】
まとめ (5)	①本時のまとめをする。 ②全体のまとめをする。 ③次回は論述文を書くことに組み合わせることを予告する。		

第4次のまとめの言語活動は、以下のとおりである。

「中国の古典と日本の古典にあらわれる恋愛観、生き死についての考え方を考察し、論述せよ」

(半断規準)

ア 関連する単元の中で読んだ文章を踏まえている。

イ 書き手や文章中の人物の人間、社会、自然などに対する思想や心情を的確に読み取っている。

ウ 書き手がどのような思いで作品を書いたのかを考察している。

「人面桃花」

孟 榮

有女子自門隙窺之、問曰、

書き下し)

現代語訳)

「誰耶。」

書き下し)

現代語訳)

以 姓 字 对 曰、

書き下し)

現代語訳)

「尋 春 独 行、酒 渴 求 飲。」

書き下し)

現代語訳)

女 入 以 杯 水 至、開 門 設 牀 命 坐、独

書き下し)

現代語訳)

倚 小 桃 斜 佇 立、而 意 属 殊 厚。妖 姿

書き下し)

現代語訳)

媚 態、綽 有 余 妍。

書き下し)

現代語訳)

崔 以 言 挑 之、不 对。目 注 者 久 之。

書き下し)

現代語訳)

崔 辞 去、送 至 門、如 不 勝 情 而 入。

書き下し)

現代語訳)

↓自・由・従(より)・より。(起点を表す)

与(より)・・・よりも。(比較を表す)

↓杯水・・・うつわに入れた水。

↓以言挑之・・・言葉をかけて気を引く。

↓不対・・・答えない。

↓目注・・・じっと見つめる。

↓不勝情・・・慕る思いに耐えかねる。

↓殊・・・ことに。とりわけ。特に。

学習活動

問題1

お互いが付けた訓点を確認し合い、間違いを直してあげよう。

問題2

お互いに音読をし、正しく読めるようになろう。

問題3

お互いに書き下し文を直し、正しく書き下せるようになろう。

問題4

なぜ娘は崔に「意属殊厚」だったのか。

問題5

「目注」とは、誰が見つめたのか。

去年今日此門中

書き下し)

現代語訳)

人面桃花相映紅

書き下し)

現代語訳)

人面祗今何処去

書き下し)

現代語訳)

桃花依旧笑春風

書き下し)

現代語訳)

後数日、偶至都城南、復往尋之。

書き下し)

現代語訳)

聞 其中有哭声、扣門問之。

書き下し)

現代語訳)

有 老父、出曰、

書き下し)

現代語訳)

「君 非 崔 護 耶。」

書き下し)

現代語訳)

曰、「是也。」

書き下し)

現代語訳)

又 哭曰、「君 殺 吾 女。」

書き下し)

現代語訳)

崔亦感慟、請入哭之、尚儼然在牀。

書き下し)

現代語訳)

崔 拳 其 首、枕 其 股、而 祝 曰、

書き下し)

現代語訳)

「某 在 斯、某 在 斯。」

書き下し)

現代語訳)

須臾 開 目、半 日 復 活 矣。

書き下し)

現代語訳)

父 大 喜、遂 以 女 歸 之。

書き下し)

現代語訳)

(本事詩)

学習活動

問題6

現代語訳で正しい番号を選び、番号を答えよ。

問題7

この物語の中で面白いと感じたところを書け。

問題8

「人面桃花」は今日、どのような意味で使われる故事成語になっているか。



人面桃花 く正しいのはどれ？

◇以下の人面桃花のあらすじは、二つが間違いを含んでいます。本文を一回だけ読みながら間違っていると思う箇所に線を引き、グループで正しいものを選びましょう。

①

博陵の崔護は、内面は美しかったが、人見知りで人とはなかなか会えない人物だった。試験では合格に一步届かなかった。そんなある日、一人で都の南で遊んでいた。するとある家に行き着いた。門をたたくと娘が門のすき間から出てきたので尋ねた。「どなたですか？」すると、姓名を名乗って、「春なので酒を飲んで酔ったので水を飲んでみるの。」と答えた。娘は器に入れた水を持ってきてたずみ、崔護をすつと眺めていた。彼女はとても妖艶で美しかった。崔護はなんとか彼女を口説こうとするが、何度話しかけても返事がなく、あきらめて立ち去ろうと、門まで来た。最後に思いを少し伝えようとしたが、女は恥ずかしそうに門の中へ入って行ってしまった。翌年の清明節の日になって、やはり娘のことが忘れられず、恋しさを抑えられなくなった。しかし家を訪ねても門は閉ざされている。そこで門の左扉に詩を書き付けた。

去年の今日、この門の中で、人の顔と桃の花とが互いに紅色に映え合っていた。

あ的美丽い人はどこに行ってしまったのか。株の花はもとのままに春風の中でほほえんでいるのに。

それから数日後、偶然都の南に出かけたので、再びその家を訪ねてみると家の中から大声をあげて泣く声が聞こえてくる。崔護は門をたたいて名を名乗った。しかしその中の老人は、「あなたは崔護ではありません。」と言う。崔護は「いや私です。」と答えた。すると「だとしたらあなたが私の娘を殺してしまっただけだ。」と老人は泣いた。老人は「私の娘は、本の素晴らしさを知り、誰のところにも教えを乞いに行っています。」とところが去年急に、気が抜けたような状態になってしまいました。先日やっとなにに教えを乞いに出かけて帰ってくると、門の扉に詩が書いてあり、それを見たときとたん病気になるってしまいました。そして食べることを絶って数日後に死んでしまいました。詩を書いたあなたが私の娘を殺したのではないといえますか。」と大きな声で泣いた。崔護はその勉強を探究する心に感動し、家に入って娘に会わせてくれるよう頼んだ。娘は生きてるように寝台に横たわっていた。崔護が大声で、「私はここにいます。私はここにいます。」と呼びかけると、まもなく娘は目を開き、再び生き返った。父親はたいそう喜んで、そのまま娘を崔護のところへ嫁がせた。

②

博陵の崔護は、たいへん美しい人物で、人とは比べものにならない人物だった。ある日、一人で都の南へ遊びに出かけ、ある家に行き当たった。その門をたたくと娘が門のすき間から出てきた。崔護は「酒を飲んで、のどが渴いたので水をいただきたい。」と言うと、娘は器に入れた水を持ってきてたずみ、崔護は女をすつと眺めていた。女はとても美しかった。崔護はなんとか娘の気を引こうとしたが、返事がなく、あきらめて立ち去ろうとすると、女は見送るために門まで来た。崔護は最後に思いを少し伝えたいが、女は門の中へ入ってしまった。

翌年の清明節の日になって、娘のことが忘れられず、恋しさを抑えられなくなった。

家を訪ねると、門にはすっかりとかんぬきがかけられていた。そこで門の左扉に詩を書き付けた。

去年の今日、この門の中で、人の顔と桃の花とが互いに紅色に映え合っていた。

あ的美丽い人はどこに行ってしまったのか。株の花はもとのままに春風の中でほほえんでいるのに。

それから数日後、偶然都の南に出かけたので、再びその家を訪ねてみた。家の中から大声をあげて泣く声が聞こえてくるので、門をたたくと二人の老人が、「あなたは崔護ではありません。」と言う。崔護は「いや私です。」と答えた。すると「あなたが私の娘を殺してしまっただけだ。」と老人は泣いた。老人は「私の娘は、まだ誰の元にも行っていませんでした。ところが去年急に、気が抜けたような状態になってしまいました。そのなかで、門の扉に詩が書いてあるのを見て、病気になるってしまいました。そして数日後に死んでしまいました。詩を書いたあなたが私の娘を殺したのではないといえますか。」と、大きな声で泣いた。崔護は心を打たれて身もたえず悲しみ、家に入って娘に会わせてくれるよう頼んだ。娘は生きてるように寝台に横たわっていた。崔護が大声で泣きながら、「私はここにいます。私はここにいます。」と祈った。するとまもなく娘は目を開き、再び生き返った。父親はたいそう喜んで、そのまま娘を崔護のところへ嫁がせた。

③

博陵の崔護は、たいへんすぐれた才能をもちながら孤独で潔癖であり、人につきあうことが苦手な人物だった。試験に不合格となってしまい、ある日、一人で都の南へ遊びに出かけ、ある家に行き当たった。その門をたたくと娘が門のすき間から出てきて尋ねてきた。崔護は「酒を飲んで、のどが渴いたので水をいただきたい。」と言うと、娘は器に入れた水を持ってきて、崔護をすつと眺めていた。彼女はとても美しかった。なんとか娘の気を引こうとしたが、返事がなく、あきらめて立ち去ろうとする、見送るために門まで来た。しかし何の思いも伝えることなく門の中へ入って行った。

翌年の清明節の日になって、ふと娘のことを思い出し、恋しさを抑えることができなくなった。その家を訪ねて行くくと、門にはすっかりとかんぬきがかけられていた。

去年の今日、この門の中で、人の顔と桃の花とが互いに紅色に映え合っていた。

あ的美丽い人はどこに行ってしまったのか。株の花はもとのままに春風の中でほほえんでいるのに。

それから数日後、偶然都の南に出かけたので、再びその家を訪ねてみた。家の中から大声をあげて泣く声が聞こえてくるので、門をたたくと二人の老人が、「あなたは崔護ではありませんか。あなたが私の娘を殺してしまっただけだ。」と言う。老人は「私の娘は、去年あなたとお会いしてからというもの、気が抜けたような状態になってしまいました。そのなかで、門の扉に詩が書いてあるのを見て、病気になるってしまいました。そして数日後に死んでしまいました。今不幸にも死んでしまっただけです。あなたが私の娘を殺したのではないといえますか。」と、大きな声で泣いた。崔護は心を打たれて身もたえず悲しみ、家に入って娘に会わせてくれるよう頼んだ。娘は生きてるように寝台に横たわっていた。崔護が大声で泣きながら、「私はここにいます。私はここにいます。」と祈った。するとまもなく娘は目を開き、再び生き返った。父親はたいそう喜んで、そのまま娘を崔護のもとへ嫁がせた。



『幽明録』二〇三二

あらすじ

ある裕福な家庭に非常に甘やかされている一人息子がいた。この息子が市場に出かけたとき、おしろいを売る美しい少女に一目惚れした。しかし、告白する方法もなく、そこで、近づく口実におしろいを買うことにした。毎日市場に行っては、おしろいを買いたいと求めるとすぐに帰ってしまい、はじめは一言も口をきけなかった。このような状態が長いこと続き、少女もおかしいと思うようになった。明るく口また買いに来たときに、少女は息子に尋ねてみた。

「お客さまはまたおしろいをお求めですが、一体何に使われるのでしょうか。」

息子は白状した。

「君のことが好きなのだけど、言い出す勇気がなかったんだ。いつも会えさえすればと思って、おしろいを買うのにかこつけて、一目お姿を見せてもらってたんだ。」

少女はあきれつつも情にほだされ、会うことを承知し、明日の晩にと約束した。その日の夜、息子は表御殿で横たわって、少女がやってくるのを待った。夕暮れ時に約束どおり少女が姿を見せた。息子は興奮して、少女の腕を取り、

「長い間の思いがついにかかったよ。」

と言い、大喜びで飛び跳ねまわったあげく、死んでしまった。少女は恐ろしくなり、どうしていいかわからなかったたので、その場から逃げ去り、明け方におしろい屋に帰った。

翌朝の食事の時間になった。両親は息子が起きてこないのを不思議に思い、部屋に行ってみたところ、息子は既に死んでしまっていた。そこで棺桶に入れることになり、衣装箱を開いたところ、百包み以上のおしろいが見つかった。大きなものから小さなものまで山ほどあり、母親は、

「うちの息子を殺したのは、このおしろいに違いはないわ。」

と言って、市場へ出かけ、市場中のおしろいを買いあさった。そしてこの少女のところに来て、筆跡を調べてみると、息子の持っているものと同じだった。そこで、少女を捕まえて問いただした。

「どうしてうちの息子を殺したのよ。」

少女はその言葉を聞いたとたん泣き出した。本当のことを詳しく説明したが、両親は信じてくれず、役所に訴えられてしまった。少女はそこで願ひ出た。

「私は死ぬのはやぶさかではありませんが、今一度亡きがらに直面して、最後のお別れをさせてください。」

県令はそれを許可した。少女は一目散に息子の家に行き、死体をさすりながら、声を上げて泣いた。

「不幸にしてこんなことになってしまいました。死者の魂にも霊が宿っているのなら、思い残すことはもうありません。」

すると、息子は突然生き返り、一部始終を話してくれた。そうして二人は夫婦となり、子孫は栄えたという。(六朝時代 志怪小説)

問題

この物語と、「人面桃花」との物語の展開上の共通点はどこだろうか。グループで話し合ってください。



『伊勢物語』「すけるもの思ひ」第四十段

原文(本文)

昔、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、思ひもぞつくとて、この女をほかに追ひやらむとす。なほさしうへ、まだ追ひやらむ。人の子なれば、まだ心いきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。女もいやしければ、すまふ力なし。なる間に、思ひなきやまひのりに手なまらば、なほかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、とどむるよしなし。幸て出でて往ぬ。男、泣く泣く詠める。

出でていなばたれか別れの難からむありしに実なる今日は悲しも

と詠みて、絶え入りにけり。親あわてにけり。なほ思ひてこそ言ひしか、いとかくしもあらじと思ふに、真実に絶え入りにければ、まどひて願立てけり。今日の入相ばかりに絶え入りて、またの日の戌の時ばかりになむ、からうじて生き出でたりける。

昔の若人は、さるすける物思ひをなむしける。今の翁、まなにしなむや。

現代語訳(口語訳)

昔、若い男性が悪くはない女性のことを思っていました。(この男性には)おせつかいをする親がいて、(男性が女性に)恋心を痛いたら困ると、この女性を他へと追いやろうとしています。(ただ)そうは言っても、まだ追いやつてはいません。(男性は)親に養われている身なので、また(女性をよそにやらないように)と親にお願いをする。気迫がなかったため、(親が女性をよそにやるのを)止める力もありません。女性も身分が低い身なので、(それに)あらがう力もありません。そうしているうちに、(男性の女性への)思ひはいよいよ寡りに寡っていきます。突然、親はこの女性を追いつきました。男性は、血の涙を流しますが、(女性が出て行くのを)とどめておくすべもありません。(従者が女性を)連れて出て行ってしまいました。男性は、泣きに泣きながら(次の歌を)詠みます。

(女性が自ら)出で行ったのなら、誰が別れ難いと思いましようか、いや思いません。(しかし)そうではないので、あり口口勝って、今日は悲しく思えます。

と詠んで、気を失ってしまいました。親はあわてました。なんといつてもやはり、(男性のことを)思ってしまったのですが、これほど(女性がいなくなると)気絶してしまうほど、女性を思つて気持ちが強い)ではあるまいと思つていたのに、本当に気を失ってしまったので、(親は)うろたえて神仏に祈りました。今日の夕暮れ時に気を失って、次の日の戌の時ほどになって、ようやく息を吹き返しました。

昔の若者は、そのような異性に対して熱の入った思い悩みをしていたのです。いまの時代の老人には、どうして(このような恋を)ができませんようか。

『伊勢物語』「ゆく蜩」第四十五段

原文(本文)

昔、男ありけり。人の娘のかしづく、いかでこの男にも言はむと思ひけり。うち出でむことかたくやありけむ、もの病みになりて、死ぬべき時に、「かくこそ思ひしか」と言ひけるを、親聞きつけて、泣く泣く告げたりければ、恐ひ来たりけれど、死にければ、つれづれと籠りをりけり。時は水無月のことなり、いと暑きころほひに、宵は遊びをりて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。蜩たかく飛び上がる。この男、見ふせりて、

ゆく蜩雲のうへまで往ぬべくは秋風吹くと雁に告げさせ

暮れがたき夏のひぐらしながむればそのこととなくものぞ悲しき

現代語訳(口語訳)

昔、男がいました。ある人の娘で大切に育てている娘が、どうにかしてこの男に想いを伝えようと思つていました。打ち明けることが難しかったのでしようか、病気になるって、死んでしまふその時に、「このように思つていたので。」と言つたのを、親が聞きつけて、(そのことを男に)泣く泣く告げたので、(男は)あわててやつてきたのですが、(娘が)死んでしまったので、しみじみともの寂しく、(女性の家で喪に服して)引きこもつていました。時は六月の下旬で、大変暑い頃で、宵には楽器の演奏をして、夜が更けてからは、少し涼しい風が吹いていました。蜩が高く飛び上がります。この男は、(その様子を)横になったまま眺めて、(次の詩を詠みました)

飛び上がる蜩よ、雲の上まで飛んでいくことができるのであれば、秋風が吹く(雁が飛来する季節になった)よと(天国の)雁(死んだ娘)に伝えておくれ

暮れにくい夏の一日中、物思いにふけっていると、なんとなくもの悲しく感じるものだ

(日本 平安時代 歌物語)

問題9

『伊勢物語』第四十段、第四五段と、「人面桃花」との物語の展開上の違いはどこだろうか。

●第四十段との違い

●第四五段との違い



